

他市の事例

学びの多様化学校 学校紹介
文部科学省HP
「学びの多様化学校の設置に向けて【手引き】」P36～



① 白石市立白石南小学校・白石南中学校 白石きぼう学園(宮城県) 令和5年4月開校

コンセプト 「学校らしくない学校」

学校概要

学級編成 (R5.4.1)	小学校 第5学年 2人 中学校 第1学年 5人、第2学年 5人、第3学年 7人(各学年1クラス)	
教職員配置	校長、小学校教頭、中学校教頭、教諭5人、講師4人、養護教諭、主事、SC、指導支援員3人、業務員	
学校生活	【通学】登校はスクールバス、下校は市民バスを活用、または保護者の送迎 【昼食】給食か弁当を選択 【部活動】設定していないが、活動希望がある場合は、近隣中学校に依頼	

特別な教育課程(概要)

- 授業時数を小4～中3は約14%、小3は約11%、小2は約4%削減。
- 新設の教科「白石タイム」で一人ひとりの状況に合わせた学び直しの時間として、未学習や苦手内容に対応。
- 総合的な学習の時間「夢スタジオ」の時間で得意なことや興味・関心に基づき自分のテーマに基づく探究的な学習を行う。

不登校生徒等の実態に配慮した工夫

- 通いやすい登下校時刻(9時20分登校・14時55分下校)。
- 1人1台端末のAIドリル等を活用した学習機会の保障。
- 地域人材を活用した学校行事や他者との関わり・コミュニケーション能力の醸成。
- 規則正しい生活習慣のため、保護者と連携した家庭での過ごし方講座の開催。
- 養護教諭による定期的な保健指導による、心と体づくり、感情のコントロールを目指す時間の確保と実施。

② 岐阜市立草潤中学校(岐阜県) 令和3年4月開校

学校教育目標 「ありのままの自分で学ぶ」

学校概要

学級編成 (R5.4.1)	中学校 第1学年 7人、第2学年 18人、第3学年 22人(各学年1クラス)	
教職員配置	校長、教頭2人、主幹教諭、教諭12人、養護教諭、事務職員、講師、校務員、相談員、SC、スクールサポートスタッフ、ALT、学校司書	
学校生活	【通学】徒歩、自転車、公共交通機関、保護者による送迎 【昼食】弁当(業者に注文も可)	

特別な教育課程(概要)

- 年間245時間を削減。
- 新たな教科・時間「セルフデザイン」、「ウォームアップ・クールダウン」を設定。
 - ①「セルフデザイン」…生徒の個性を伸ばしつつ自己肯定感の育成をめざす制作学習
 - ②「ウォームアップ・クールダウン」…よりよい生活の仕方やセルフコントロールスキルの育成を目指す

不登校生徒等の実態に配慮した工夫

- 市内全域からの通学を考慮した登下校時刻(9時30分登校・14時35分下校)。
- 生徒の学習進度に合わせて、タブレットや様々な教材を活用した個別学習等の支援。
- 地域人材を活用した行事等で他者との関わりやコミュニケーション能力を育成。
- 個別のカルテを作成し、生徒一人ひとりの状況に合わせた支援を全職員で実施。

③ 京都市立洛風中学校(京都府) 平成16年10月開校

学校教育目標 「人と 学びと 社会と つながる学校」

学校概要

学級編成 (R5.4.1)	中学校 第1学年 7人、第2学年 18人、第3学年 22人(各学年1クラス)	
教職員配置	校長、小学校教頭、中学校教頭、教諭10人、講師4人、養護教員、専門主事、事務職員	
学校生活	【通学】徒歩、公共交通機関、保護者による送迎 【昼食】給食か弁当を選択	

特別な教育課程(概要)

- 年間総授業時間数は770時間に設定。
- 新たな教科・時間「科学の時間」、「創造工房」、「ヒューマン・タイム」で社会、理科、美術、技術、家庭の教科や道徳、特別活動の教科等の特性を活かした授業内容を実施。
 - ①「科学の時間」…社会、理科を基に科学的な考え方を養う
 - ②「創造工房」…様々な色・音・素材等と出会う体験活動を活かした自己表現ができるようにする。
 - ③「ヒューマン・タイム」…行事や取組を通して仲間と交流を深める。

不登校生徒等の実態に配慮した工夫

- 時間に余裕を持たせた登校時刻(9時30分登校)。
- 担当スタッフと1日の予定の確認と健康観察をし、コミュニケーションをとれるようにしている。
- 縦割りグループで活動する時間を設け、学年を越えた縦のつながりでの活動を実施。
- SCやSSWを配置し、生徒・保護者への細やかな支援。
- 教育課程は基礎・基本の定着を図り、多様な体験学習を通して学ぶ意欲を高め、社会性を育むよう計画。